



整形外科シリーズ

—第7回

整形外科医長
肩関節治療センター
松葉 友幸

肩関節脱臼について

肩が脱臼してすごく痛かった。整体や整形外科に行ってハメてもらつたら痛みがなくなつた。クセになつてしまつすぐに外れるから手術したなどの話を聞くと思います。肩は動かせる範囲が広い分、不安定な関節のため、脱臼(腕の骨が受け皿の肩甲骨から外れてしまつて戻らなくなること)を起こすことがあります。前方に外れることが多い(図1・腕の骨が前に抜けているレントゲン)、腕を引っ張つて戻すことが

多いです(図2・引っ張つて元の位置に戻したレントゲン)。

外れている様子は同じですが、年齢や性別、強い力の有無によって肩の中で起きていることが異なり、異なる治療が必要になります。

●若い人で強い力が加わった脱臼

ラグビーでタックルをしたら外れてしまつた。野球でヘッドスライディングをしたら外れてしまつたなど、若者で強い力が加わり起る脱臼です。肩関節には関節包、関節唇複合体という肩を動かす空間を作つている構造がありますが、それが骨から剥がれてしまつります。若い人ほど再発しやすく30~80%の患者で繰り返すことがあります(反復性肩関節脱臼)。再発を防ぐためには初めての脱臼の際にしばらく固定しておくことが大事です。何度も繰り返し脱臼し、日常生活に支障がある場合は構造的に壊れているので手術が必要になります。

●若い人で思い当たることがないのに脱臼

若い女性に多く、肩が柔らかすぎて緩い場合に起ります。生まれつき肩の受け皿の形が悪い、筋力が弱い、関節周囲の組織に弾力性があるなどが原因で、腕を体に引き付ける力が弱いために脱臼します(動搖性肩関節症)。肩が構造的に壊れていないため、体の成長によつて骨格がしつかりしたり、リハビリにて腕を体に引き寄せる力を強くする体操やスムーズに腕を上げる訓練を行うとほとんどの症例が良くなります。

●高齢者で強い力が加わった脱臼

高齢者で肩に強い力が加わり脱臼する場合は以前に述べた腱板断裂が起きていることが多いです。腱板には腕を体に引き付けて腕を安定化する作用があります。腱板断裂では腕が不安定になつてしまつたため、外れてしまつます。しばらく固定しても不安定な場合は、腱板を修復する手術が必要になります。



(図1)

(図2)